

〔第2部〕 会員にとっての看護協会活動

昭和21年に1,323人で発足した日本看護協会は、現在24万人が加入する大組織となり、活動内容も年々拡充してきている。

加入者が増え、組織が大きくなるということは、看護職を代表する団体としての対外的発言力が高まり、事業推進の基盤となる人材、財力も豊かになるため、組織としては好ましいことである。しかし視点を変えて、個々の会員からみた場合どうだろうか。

本会は、看護職が本人の意志で任意に加入する団体であり、会員の意志によって会員の手で運営される組織であるため、どのような協会活動を行なうかは、全く会員の意志による。極端に言えば協会は必要ないと多くの会員が考えれば消滅するし、協会が必要だと考えれば、必要とされた部分の活動が活発に行なわれるはずである。そして、協会活動を活発化するには、多くの会員が組織上の意志決定と運営にかかわることが不可欠である。

ところが、組織が大きくなると、意志決定や組織運営が複雑になり、全員がかかわらなくても組織は維持される。一定の機能を維持するために、

多くの（全体からみれば極少数の）会員の努力が払われてはいるのだが、それはなかなか全会員の目にはふれにくい。かくして、多くの会員は、意志決定や組織運営には実質的に無縁な形で、組織が存続することも可能である。むしろ、実態はこれに近いかもしれない。

しかし、多くの会員が意志決定や組織運営に無関係のまま組織が運営されるならば、何のための協会活動かわからなくなる危険性を常にはらんでいる。

個々の会員が、協会組織をどう考え、どう行動するかが組織運営の要であるので、個々の会員にとっての看護協会活動という視点で協会活動をとらえ直すことが重要である。

そこで、本調査では、会員はどのようなきっかけで看護協会にはいる、協会とのかかわりは実際どの程度あるのかという実態と、協会運営や取り組むべき事柄についてどのような意見をもっているのかを調べた。以下、簡単にその結果を報告するので、協会活動のあり方を考える上での参考にしていただきたい。

I 会員になった看護職の特徴

本調査は、会員になっている看護職の実態や意識であるが、その結果を述べる前に、看護職の中のどのような人達が会員になっているかについて簡単にふれておく。

1 会員数と入会率

会員の64.2%は看護婦、24.5%は准看護婦で占める〈表37〉。

就業者の入会率をみると保健婦はほとんどが入会しており、准看護婦は2割にとどまる。

表 37 会員数と入会率

	会 員 数 *	全国就業者数 **	就業者の入会率 ***
保 健 婦	15,917 (7.1)	17,957	88.6 %
助 産 婦	9,369 (4.2)	27,388	34.2
看 護 婦	144,664 (64.2)	261,613	55.3
准 看 護 婦	55,077 (24.5)	257,219	21.4
全 体	225,027 (100.0)	564,177	39.9

* 会員数：昭和55年12月現在

** 全国就業者数：昭和55年12月31日現在「看護関係統計資料集」厚生省医務局看護課監修

*** 分子となる会員数の中には離職者も 1.6% 含まれているので、入会率は若干高く出ているが、ほとんど変わらない。

表 38 勤務場所別入会率（推計）

<表 38-1> 保健婦

	会 員 数 (S 55. 12)		全国就業者数 ** (S 55. 12) (B)	推計入会率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$
	本調査による 構 成 比 率	推計会員数 * (A)		
保 健 所	43.17	6,798	7,649	89 %
市 町 村	45.31	7,135	7,750	92
病 院・診 療 所	2.88	454	1,057	43
事 業 所	5.40	850	852	100
そ の 他	3.24	509	480	100
計 (養成所勤務者) を除く	100.00	15,748	17,788	89

* 保健婦会員数 15,917名より養成所勤務者 169名を除き、本調査構成比率をかけて推計。

** 前掲資料より

<表 38-2> 助産婦

	会 員 数 (S 55. 12)		全国就業者数 ** (S 55. 12) (B)	推計入会率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$
	本調査による 構 成 比 率	推計会員数 * (A)		
病 院	93.38	8,555	11,946	72 %
診 療 所	2.21	202	4,750	4
保 健 所	1.47	135	132	100
助産所・その他	2.94	269	10,352	3
計 (養成所勤務者) を除く	100.00	9,161	27,180	34

* 同様にして推計

** 同上

2 勤務場所別の入会率

本調査の結果をもとに職種毎に、勤務場所別の入会率を大雑把に推計してみた。その結果、保健婦は、病院・診療所勤務者以外、ほとんど入会していることが推測された<表38-1>。

助産婦の場合、病院勤務助産婦は7割と比較的多くの者が加入しているが、就業者の3分の1を占める助産所助産婦の入会がほとんどない。また、診療所勤務者の入会も非常に少ないことが推測された<表38-2>。このため助産婦全体の入会率は低いものと思われる。

看護婦は、就業者の8割を占める病院勤務者のうち6割が加入していることが推測された<表38

-3>。この人達が、本会会員の5割強を占める最多数集団である。診療所勤務の看護婦の加入は非常に低いことも推測された。

准看護婦は、病院勤務者でも3割しか加入しておらず、診療所勤務者の加入はほとんどないことが推測された<表38-4>。

3 病院勤務会員の勤務先の特徴

病院に勤務する会員の設置主体別構成比率と全国就業者のそれとを比較すると、本会会員は、「国立」、「自治体立」、「日赤」をはじめ公的病院に勤務する者の比率が高く、「医療法人・個人」の

<表38-3> 看護婦(士)

	会 員 数 (S 56.1)		全国就業者数** (S 55.12) (B)	推計入会率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$
	本調査による 構成比率	推計会員数* (A)		
病 院	95.42	132,793	211,540	63%
診 療 所	1.74	2,421	39,260	6
保 健 所	0.06	83	427	19
そ の 他	2.78	3,869	4,888	79
計(養成所勤務者) を除く	100.00	139,166	256,115	54

* 同様にして推計

** 同上

<表38-4> 准看護婦(士)

	会 員 数 (S 56.1)		全国就業者数** (S 55.12) (B)	推計入会率 $\frac{(A)}{(B)} \times 100$
	本調査による 構成比率	推計会員数* (A)		
病 院	91.22	50,241	168,386	30%
診 療 所	3.64	2,005	86,570	2
保 健 所	—	—	66	0
そ の 他	5.14	2,831	2,197	100
計	100.00	55,077	257,219	21

* 同様にして推計

** 同上

表 39 病院の設置主体別会員構成比率

病院の設置主体	会員の構成比率*	全国就業者の構成比率**
国立(厚生省)	13.7%	7.4%
国立(文部省)	} 19.9	} 6.4
国立(その他)		
都道府県・政令市	15.9	9.0
市 町 村	18.2	14.7
日 赤	6.0	3.8
厚生連・北海道社会事業協会・国保連合会・済生会	7.5	5.0
社会保険関係団体	6.2	3.8
会社・公益法人・学校法人 その他の法人	10.0	14.8
医療法人・個人	10.6	35.1
計	100.0	100.0

* 本調査結果より

** 昭和55年「病院報告」厚生省統計情報部

表 40 病院の院床数別会員構成比率

	会員の構成比率*	全国就業者の構成比率**
～ 99 床	6.5%	16.6%
100 ～ 299	32.5	35.2
300 ～ 499	28.7	24.4
500 床以上	32.3	23.8
計	100.0	100.0

* 同上

** 同上

病院に勤務する者は少ない<表 39>。

病床数でみると「500床以上」に勤務する者が多く、「99床以下」の小病院に勤務する者の比率が低い<表 40>。即ち、公的病院でかつ大病院に勤務する者の入会率が高いということである。

4 年齢の特徴

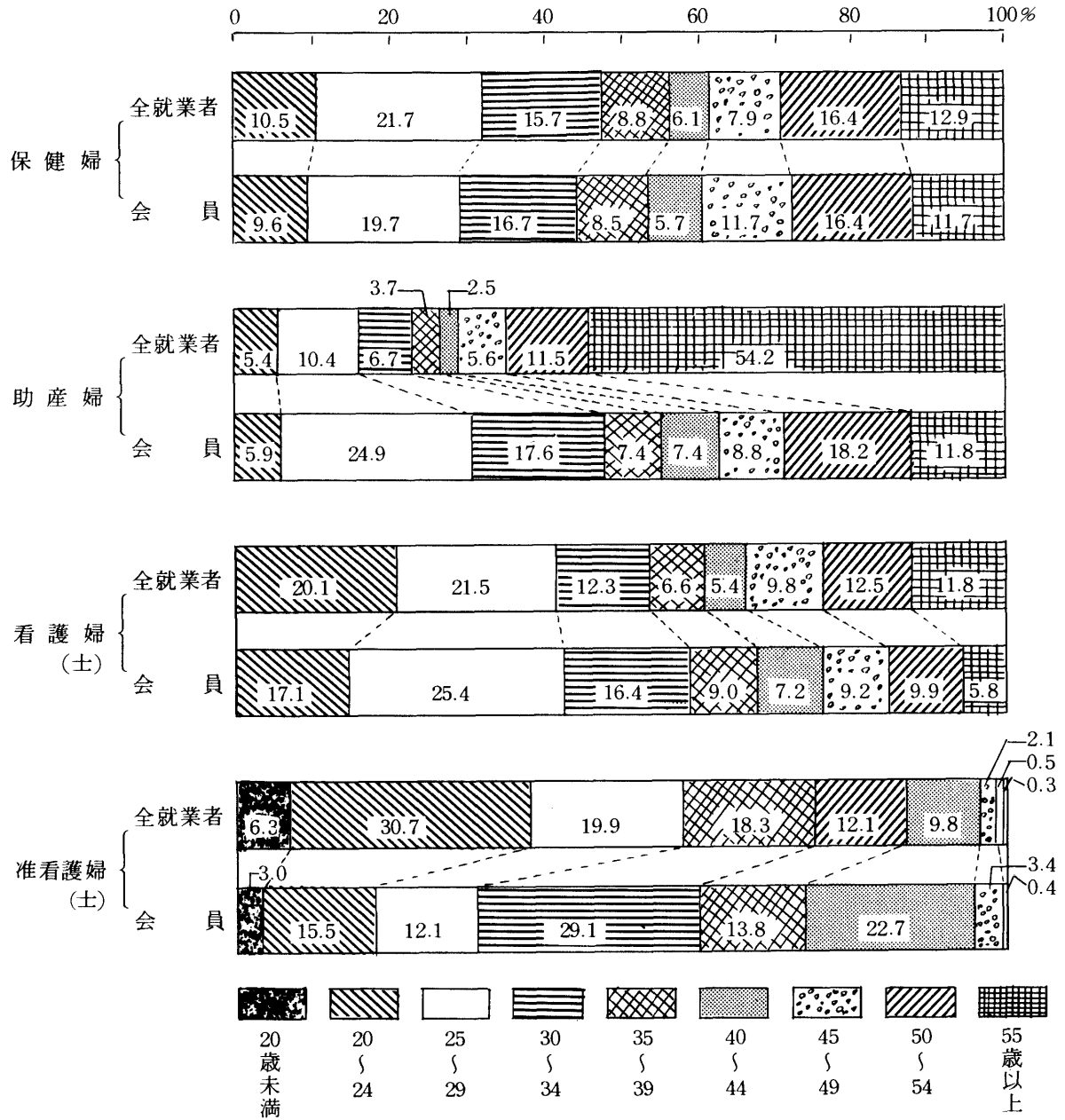
職種別に会員の年齢構成と全国就業者のそれと

を比較すると、保健婦、看護婦は似たような構成比である<図 12>。

助産婦会員は「55歳以上」の割合が少ない。これは、助産所助産婦の加入がないためである。

また、准看護婦会員は、中堅層の比率が高い。これは、病院に定着した人が加入しているためと考えられる。

図 12 職種別年齢構成比



Ⅱ 看護協会に入会した動機

まず、看護協会に入会した動機を聞いたところ、入ろうと意識して入会した会員は半数以下にとどまった<図 13>。

年齢別にみると、年齢の高い人ほど自分から進んで入会しているのに、若い人ほど「知らないう

ちに入会していた」「自分も入らなければならないような雰囲気だったので」と周りに流されてやむなく入会した人が多い<図 14>。

一般的には最近になるほど、自分のことは自分で決める傾向が強いと思われるが、看護協会の入